ふれあいコンサートから
育成会本人活動うたう会へ

本人部会支援者・うたう会
指導者　岩木達

新連載 スタート１

現在，本人部会支援者・うたう会指導者の岩木達氏は小学校の元校長先生。当時の障害児教育から障害者支援へ…障害者週間行事だった「ふれあいコンサート」発足のお話。現在の本人活動に寄り添う思いを綴っていただきます。

私は、一九八六年(昭和61年)から3年間、呉市教育委員会で障害児教育を担当しました。その時のつながりから「ふれあいコンサート」に出会い、「育成会県大会」に出会い、「うたう会」に出会い、「本人部会」に出会いました。

ふれあいコンサートは、一九九五年(平成７年)に第１回を開催し、二〇一九年(平成31年)の第25回まで四半世紀にわたって活動しました。私は発足時からかかわっていて、記録や記憶を手繰りながら当時を振り返ってみたいと思います。

呉市内の小学校では、水曜日の午後は研修や記録会などの合同行事などに充てていました。その活動の一つに国語などの教科部会と道徳などの教科外部会があって、全教員がいずれかに所属し、合同で研修していました。

私は、音楽部会員と障害児教育部会員でした。その年の６月の障害児教育部会で、ある小規模作業所の方の実践をお聞きしました。つばき会館にある身障者利用者センターの開設10周年記念式典で、作業所の仲間が舞台いっぱいに歌ったのです。障害を持った仲間が笑顔で生き生きと歌ったその様子を熱っぽく話されました。

８月の部会研修は施設訪問でした。現在の新広駅の敷地内にあった広生活実習所にお願いすることにし、依頼に訪れました。あまり広くない部屋で作業をしておられたのは保護者の方でした。在宅の重い障害の人は、養護学校スタートで活動の場が出来たものの、卒業後は再び在宅を余儀なくされました。そこで数人の保護者が寄り集まって作った生活の場が、この作業所だとのことでした。重度の障害を持つ人とその家族の方が、温かく寄り添っておられました。２週間後の施設訪問では、広公民館でオリエンテーションをし、分散して訪問しました。

こうした折、８月の末に「ふれあいコンサート」が計画され、その実行委員に誘われました。ひっそりと存在している内10か所の小規模作業所と、そこに集う人たちのことを広く市民に知ってもおうと育成会の親の会が模索していた時、身障者利用者センター10周年式典での発表に接したのです。そして、音楽で触れ合うふれあいコンサートが動き始めました。

作業所の保護者はＴシャツやバンダナの作成と広告集めを、バンドのHATSは演奏曲のＣＤを作り、国立病院リハビリ学院の学生はＣＤを手に作業所へ曲の練習に出かけました。各作業所で練習した成果で、10月のボランティア祭のステージに３曲歌い、11月の国立リハ学園祭にも参加して歌いました。

12月９日、呉市の「障害者の日」記念講演会の後に引き続いてふれあいコンサートが始まりました。５日前にも二河小で練習し、前日にリハーサルをして臨みましたが、本当に市民会館ホールのステージに立てるだろうかと実行委員会では心配していました。しかし、お揃いの白いＴシャツと赤いバンダナでしっかり表現出来ました。「ラ・ラ・ラ・」などのオリジナル曲を客席で歌い、「小規模作業所って何？」で各作業所の仲間が紹介をし、最後は仲間全員がステージに上がり「きっとくる明日へ」を高らかに歌いました。動きだした流れに飲み込まれていたものの、終わって初めて自分達に自信を持ちました。ふれあいコンサートへの取り組みは、次への大きなうねりを生みました。

…次回へ。

連載 2

現在，本人部会支援者・うたう会指導者の岩木達氏は小学校の元校長先生。前回の内容は障害児教育から障害者支援へ…。障害者週間行事だった「ふれあいコンサート」発足のお話でした。さて，今回のお話は…

ふれあいコンサートからかしの木へ

小規模作業所のことを、広く市民に知ってもらおうと開催したふれあいコンサートは、WAHTS をはじめとする多くのボランティアの支えで、その目的の第一歩を果たしました。

主役の作業所の仲間は、初めてのステージをやり終え、第２回への意欲を持ちました。

作業所の保護者・職員は、実施に向けての資金集めなどに奔走し、仲間以上に達成感を得ました。40ページの当日のプログラムの内、35ページが広告で埋まっています。大きな企業から、医院・商店・工務店・飲食店・美容院・八百屋などなど幅広く募って回られたことが伺えます。また、WATHS が制作したふれコンオリジナル曲の CD を協賛金として販売に回り、広告以上の収益を得ました。近所の人や近くのお店の人に、自分の作業所のこと、コンサートのことなど話されながら奔走されたのでしょう。

ふれあいコンサートの終わった２月のある日、作業所が合同で法人の作業所を作る準備をしていることを知らされました。

無認可の施設のため、県や市のわずかな補助で苦しい経営をしながらひっそりと活動をしていた小規模作業所が、ふれコンをやり遂げたエネルギーで法人化施設設立に動き出していたのです。そして３月、その設立準備委員会が立ち上がりました。

第２回のふれあいコンサートに向けての実行委員会（４月21日）の議事録の冒頭に、法人化について記載されているので、そのまま掲載します。

「呉かしの木作業所（授産施設として）の福祉法人化をめざして10ケ所の作業所でその実現を目指して平成10年をめどに仲間たちで積極的に推進していきたい。

３００坪の土地、50名、資産５、０００万円と、きびしい条件もあるが、一歩一歩確実に進めていきたい。

第１回ふれあいコンサートの収益金も法人化の資金としてプールしておくつもりなので、第２回ふれあいコンサートは予算ゼロからの出発になる。コンサート開催の為の資金集めも、昨年よりきびしい状況になるのではないかと思っている。……」

法人化施設設立の途方もない夢が実現に向けて、ふれあいコンサートとともに動き始めました。県の担当者との進捗状況を設立委員会の席で聞かされたりしましたが、前途多難のようでした。

夏祭りとしてバザーも開き、幅広い支援者からの援助もありました。ふれあいコンサートは練習を重ね、国立リハ祭前に出場するなど、前年以上に充実した取り組みをしました。小規模作業所は、昨年以上の資金集めをし、プログラムの広告は50ページに及びました。

そうした努力を重ねている時、無償での土地の提供者と施設の設計者があり、コンサートの頃には実現のめどが立ちました。

第２回ふれあいコンサートは大変盛り上がり作業所の仲間は来年を期待しましたが、職員保護者は燃え尽き、コンサートのための資金集めはここで終了しました。

…次回へ

連載３

「ふれあいコンサートからかしの木へ」。第２回ふれあいコンサートは大変盛り上がり，作業所の仲間は次年度の開催を期待しました。しかし職員・保護者は燃え尽き，コンサートのための資金集めはここで終了していまいましたが・・・

ふれあいコンサートから本人活動へ

４回目のふれあいコンサートを終えた翌年の平成11年（一九九九年）秋に、呉で「第25回広島県知的障害者福祉大会」が開かれることになりました。この県大会が呉で持たれるのは第３回（一九七七年）、第７回（一九八一年）、第14回（一九八八年）以来のことです。

前回14回の呉には参加者約900人が集い、盛会だったと40周年記念誌「きぼう」に記されています。しかし、保護者と共に参加した本来は主役の本人のほとんどは会場には居ないで、用意されたバスで観光をするなどというのがいつもだったとのことです。

観光などという受け身の参加ではない、本人が集い、何か創り出す活動をしよう。ふれあいコンサートの成功で盛り上がっていた作業所や実行委員会のメンバーが立ち上がりました。

ふれあいコンサートでは、ペットボトルや空き缶などにカラーテープを張ったりした手作りの打楽器を持ち寄り、ワッツの演奏に合わせて歌っていたのです。この手法で「本人部会」を構成することにしました。

本人が集う会場は、新装の二河中学校体育館です。参加者とボランティアを20人ずつ24グループに分けました。受付で黄色の丸型、赤色の三角などのワッペン（さらに数字でグループ分け）を付け、ボランティアと共に同じ形・番号のプラカードの周りに円陣で座ります。ボランティアは高校生を含め、参加者とほぼ同数の方が応募に応えてくださいました。

午前中は、グループ内で交流をし、手作り楽器を作り、お弁当を食べました。午後からは、手作り楽器でワッツと共に歌いました。

ふれあいコンサートのオリジナル曲「ラ・ラ・ラ」「きっと来る明日へ」などです。

そして、全体会で発表するための歌とアピールのリハーサルをし、中央公民館へ向かいました。

閉会行事が始まるのを待って、客席を縫うように入場し、ステージいっぱいに立ち並びました。そして、リハーサル以上の力を発揮し、最高の閉会行事を演出しました。

次に呉がこの県大会の会場になったのは10年後平成21年の「第35回知的障害者福祉大会」と「第８回はつらつ大会（本人大会）」です。

第25回大会　に呉で行った本人大会が恒例化されて、８回目を迎えていたのです。

私は、二〇〇二年に定年退職し、育成会を離れていましたが、「うたう会」の指導者になりました。

その歌う会のメンバーが、育成会の計らいで本人部会を立ち上げ、活動を始めていました。

そして、この呉での本人大会に支援者で係わりました。

当日の構成は、行政との話し合い、昼食後のワッツとの歌声タイム、午後はフライイングディスクと悩み事相談でした。自分たちで計画し交渉し、400人の参加者の会を見事にやり遂げました。

今年の大会は、10月23日に広島市で中国大会を兼ねて行われます。大竹・廿日市・広島・安芸高田・庄原・竹原・因島・尾道・福山・神辺そして呉からの「はつらつ友の会」の代表者が毎月県の育成会に集まり、決議文の作成、役割分担など話し合って（昨年からリモートでの参加もできる）決めています。

呉での本人部会の試みは、大きな起爆剤になっていたのです。

…次回へ

連載４

「第 25 回県福祉大会」で本人さんたちは，グループ交流をし，手作り楽器を作り共に歌いました。その後「うたう会・本人部会」の立ち上げ，活動がスタート。岩木さんのご指導の下，呉の本人活動の輪が少しずつ県内の「はつらつ大会（本人大会）」「はつらつ友の会」と拡がっていきました。

ふれあいコンサートからうたう会へ

定年退職し、新たに施行された再任用制度に応募して、西条小学校へ音楽の専科教員として電車通勤している時です。「作業所が休みになった土曜日に、余暇活動として音楽で何かさせたい。」と、ひとりのお母さんから相談を受けました。

ふれあいコンサートでは、手作り楽器で、ワッツの演奏に合わせて歌いながら楽しんでいました。

3年前、二河中学校に県下の仲間と集い、手作り楽器で盛り上がりました。こんなことがあって、余暇活動を「音楽で」と、私が名指しされたのでしょう。

どんな音楽活動をするか。ふれコンのようにするには、録音した音楽に合わせて楽しむことでできます。また、旋律楽器の演奏も考えました。身近な楽器はリコーダーや鍵盤ハーモニカです。

しかし管楽器は、唾をうまくコントロールしないと、吹き口が詰まったら音が出ません。あれこれ考えた末、歌で音楽を楽しむことにしました。そして、育成会の本人活動事業「うたう会」として発足しました。

平成14年(二〇〇二年)12月14日曜日午後の市民会館に、「おお ブレネリ・大きな古時計」など5曲を用意して臨みました。10余りのメンバーとボランティア、保護者が集まっておられ、オルガンで伴奏し、声をしっかり届けるようにして一緒に歌いました。保護者からは、楽しかったと言ってもらえました。

次回の1月には、リクエスト曲を含め、歌詞カードを作り、3月の会には、打楽器を取り入れ、歌いながら自由に音を出しました。多忙だった再任用の教員生活は3月で終り、4月からは呉市の嘱託としてつばき会館文化フロア―勤務となり、ゆとりを持ってうたう会ができるようになりました。

メンバーも増えました。メンバーには、歌が歌えない人もいます。みんなの歌に興じて室内を闊歩する人、打楽器を自由に鳴らす人、歌に合わせて体を動かす人など様々ですが、居場所として楽しんでいます。

回を重ねるにつれて打楽器の賑やかな即興演奏は少なくなり、歌に集中してきました。

12月のクリスマス会には、手分けして買い物をし、食べたり歌ったり、なごやかな会が持てました。

ピアノ伴奏はボランティアの方にお願いしていたのですが、3年目にピアノが弾けるメンバーが加わりました。だんだん上達し、曲集すべてがピアノ伴奏で気持ち良く歌えるようになりました。こうしてうたう会は軌道に乗り、20年目を迎えています。

会は2時からですが、始まるまでの時間は、伴奏のメンバーが自由に選んで弾く曲を歌い、会長のあいさつで始めます。

ホワイトボードには、私の選んだ「今月の歌」10曲が書記の手で書かれています。前半を終え、10分ほどの休憩の間に、書記がメンバーからの歌いたい歌名を表示し、後半は一人ずつ前に出て歌うリクエストタイムです。尻込みする人はいません。歌い終えて、拍手の中を誇らしげに席に帰ります。曲によっては2～3人が出たり、全員が出たりし、保護者や家族にも出番があります。最後は、会長の挨拶、さようならの曲を歌って終りです。

第3日曜日午後つばき会館、ご自由に参加ください。…次回へ

連載５

２００２年育成会のうたう会の指導者としてスタートしていただき，「本人部会」が産声を上げました。呉で，県内初の本人大会を自分たちで計画，交渉し４００人の参加者と共に見事にやり遂げました。その流れが今日の広島県大会本人大会の礎になっているようです。・・・今回はその後の活動についてお話いただきます。

うたう会から育成会本人活動へ

「うたう会」は、作業所が休みになった余暇活動として二〇〇二年に誕生し、月一回集まって歌っていました。　次の年の七月に、「育成会七夕まつり」が行われ、うたう会はそのステージに立ちました。初めてのステージに緊張してか、みんなの声が出ません。私はマイクを突きつけられ、しどろもどろで「勇気100％」を伴奏した苦い思い出の七夕まつりのスタートでした。十二月にはうたう会でクリスマス会をしました。この「うたう会」が、私が知らない別の活動をしていたのです。

二〇〇七年の四月、歌う会のメンバーからお花見の誘いを受けました。

メンバー一行はヘルパーさんを含め十人。中央桟橋に集合し、江田島の術科学校へ行きました。術科学校では施設案内を受け、広場でお弁当を食べてバスで切串へ向かいます。切串からフェリーで呉ポートピアへ。ふれあいショップで買い物などをし、呉に帰りました。この計画と段取りをすべて自分たちでこなしていたのに驚かされました。

うたう会のメンバーが、当時の育成会の事務局長と活動しているのはうすうす聞いていましたが、何をしているのか知りませんでした。育成会記念誌には、倉橋の桂が浜で夏季リクレーションを、次いで広島市野外活動センターで二泊三日の野外活動キャンプをしたことが記されています。うたう会が発足した夏のことです。

二〇〇五年には広島での全国大会で、本人部会五名が実行委員になっていますが、事務局長をはじめとする支援者と共に、うたう会の午前に活動をしていた成果です。

このお花見の後、このメンバーの活動に同行することが増えました。七夕まつりもそうですが、呉ポートピアパークでの「くれ福祉まつり」、障害を持つ仲間が、桂が浜温泉に集う「倉橋みかげコンサート」、「野呂山学園祭」などです。野呂山学園祭には、グリーンヒル郷原で合宿しているメンバーが出演するのでと、急遽伴奏に呼ばれたこともありました。

そして二〇〇九年、呉で開催する県福祉大会の実行委員の一員になり、本人大会に携わることになりました。

その第八回はつらつ大会（本人大会）は、十月二十日呉市体育館で行いました。この日のため、夏にどんな会にするかの話し合いをし、県内の代表が集まって打ち合わせをし、福祉保健課長さんと行政への要望事項のすり合わせをするなど、支援者さんと共に着実に本番を目指していました。責任者の私は、ただ感心しているばかりでした。

大会は無事終わり、私の竹原の畑で、さつまいも芋掘りとバーベキューをして成功を祝いました。

その後は、うたう会以外はステージに立つ時だけ同行するのみでしたが、二〇一六年本人部会の支援者を引受け、うたう会の午前に本人部会を持ち、活動計画を立てるなどの話し合いをしています。

二〇一九年に呉で開いた県福祉大会も、県下各地の代表者の方々との協議のたまもので大成功でした。

コロナ禍の今、カラオケやカレー作りは控え、七夕の短冊や年賀状で字の上達を図ったり、人前で自分の考えをまとめて言える練習をしたりの勉強会をしています。

広島での年六回のはつらつ代表者会に会長さんと出席しています。

リモートでの全国の仲間との交流も始まりました。本人活動はどんどん広がっており、これからも支えていきたいと思います。　…次回へ

連載６

2019 年第 25 回をもって終了したふれあいコンサート。数々の思い出と，たくさんの素晴らしい歌に込められた思いと共に，またいつの日かふれコンオリジナル曲を皆で歌いまくる日が来ることを願って書いていただきました。

ふれコンの輝く歌

ふれあいコンサートは『ララララ』で開幕します。右手の人差し指と中指を交差させた「ら」の指文字を振りながら「♪ラーララー　ラーララー」と歌います。エンディングは『きっと来る明日へ』です。大きな動きで手話表現をしながら歌います。「♪……きっと来る明日へ向かって走り出そうよ　君と僕の明日へー」と，会場の熱気は盛り上がります。そして「アンコール　アンコール」の声に会場が一つになっての拍手と掛け声で『ララララ』が始まり，希望者みんながステージに上がって歌います。これがふれコンのスタイルでした。

ふれコンで歌う曲は，ワッツのメンバーによるオリジナル曲ですが，その中に作業所の利用者さん本人が作詞した歌があります。「きっと来る明日へ』もその一つです。

「♪喜びが終われば　悲しみが待っている……だけど悲しみの後には　新しい喜びが待っている　だから　人生の夜明けを信じよう　ひとりひとりがひとりじゃない」と歌う『ひとりひとりが　ひとりじゃない』も第１回から歌

第２回には『君と僕の物語』や「♪辛いだろうが我慢して　胸に希望の夢を抱き……」と歌う『悲しみの丘』『夢さえあれば』が生まれ，歌い継がれてきました。

第 12 回の開催に備えて，利用者さんから歌詞の公募をしました。そこで３編が選ばれました。『Boys and Gils love forever』『しあわせ』『出会い』で，それぞれに曲が付けられました。「♪幸せとは運命　幸せとは絆　……涙の後には　幸せが舞い降りてくる　いろんな気持ち　抱え込んで　しあわせ　しあわせ　しあわせ～」と「♪しあわせ　しあわせ」を繰り返す軽快な歌が『しあわせ』です。

『 出 会 い 』

「♪縁日ですくった金魚を川に逃がす
星空を見れば必ず何かを誓う
萎れた花を見れば水をやる
そんなあなたの後ろ姿に
あしたを見つけた
あなたを育ててよかった
あなたに出会えてよかった
あしたを信じてよかった」

「♪戸惑う心を笑顔で隠しながら
そっとぬぐった頬　伝わる涙
それはまるで雨上がりの虹のようだね
一筋の希望に続く
道に思えた
あなたを育ててよかった
あなたに出会えてよかった
あしたを信じてよかった　」

１番は，温かいまなざしで見つめ，いつくしみ育ててくださる両親への感謝の思いと信頼感がひしひしと伝わります。２番は，作業所施設の職員さんへの思いです。この作者は，電動車いすで生活しておられ，作業所では，スティックをくわえて，パソコンのキーボードに向かっておられるとのことです。この詩も，このスティックの先から書き留められたのでしょう。

ふれあいコンサートは，2019 年に第 25 回をもって終了しました。たくさんの素晴らしい歌を歌い続けてきましたが，もうその機会がなくなりました。うたう会の曲集には取り上げています。ワッツのメンバーは健在です。いつの日か，ふれコンオリジナル曲を歌いまくる日が来ることを願ってやみません。

…次回へ

連載７

うたう会の指導をされている岩木さんは，毎月季節の歌について話してくださり，みんなで一緒に歌っています。学校でも習わなかったような昔々の曲もたくさん教えてくださっています。その中から，今回は童謡についてお話いただきました。

うたう会の童謡唱歌 ①

うたう会の歌集「歌に本」には， たくさんの童謡，唱歌が載っています。小さい頃歌っていたのが蘇ったのでしょう，「次の時，これを入れてください。」と，広告の裏紙に可愛い童謡の歌詞を書いて持ってきたりしていました。歌集は，Ａ５判のクリアファイルに差し入れていました。１ページを印刷するためには３～４の新曲が必要で，歌集の曲数はどんどん増えました。その歌詞を入力していて，自分が今まで間違って歌っていたことに気づかされた歌があります。

「♪おつかいありさん」は〝あっち行ってチョンチョン　こっち行ってチョン〟ではなくて〝……こっち来てチョン〟でした。
何気なく間違った歌詞で歌っている歌をあげてみます。

「♪めだかの学校」の３番〝水に流れてすーいすい〟と歌いがちですが〝水に流れてつーいつい〟です。
うたう会のメンバーにクイズ形式でどちらが正しいかと聞いたところ，全員不正解でした。メダカなど魚は，流れに向かってツイーツイーと尾っぽを振って群れています。

「♪たき火」もクイズにして「たき火にあたっている歌ですか」と聞くと，全員そうだと答えました。３番の歌詞

〝木枯らし 木枯らし 寒い道
たき火だ たき火だ 落ち葉たき
あたろうか あたろうよ
相談しながら 歩いてる〟

曲がり角でたき火が見えたので，あたるかどうか相談しながら歩いているのです。一人で歩いているのではなく，二人以上の友達と歩いていて，たき火を見つけた一人が「あたろうか」と問いかけると「あたろうよ」と答えているのです。情景が飲み込めると歌い方の工夫ができます。「あたろうか」は，友達の気持ちを推しはかってそっと聞き，友達は「あたろうよ」と元気に答え，一人二役で歌います。

「♪どんぐりころころ」もほぼ全滅でした。〝どんぐりころころ　どんぐりこ〟ではなく〝……　どんぶりこ〟です。この歌には３番があるのをメンバーから教わりました。

〝どんぐりころころ 泣いてたら
やさしいリスさん やって来て
木の葉にくるんで だっこして
お山に帰して あげたとさ〟

「♪チューリップ」にも可愛い２番と３番があるとのことです。

〝２揺れる 揺れる チューリップの花が
風に揺れて にこにこ笑う
どの花見ても 可愛いな
３風に揺れる チューリップの花に
とまる とまる チョウチョがとまる
チョウチョと花が 遊んでる〟

歌詞の情景に思いを寄せると，歌にも気持ちがこもります。「♪虫の声」の歌い出し〝あれマツムシが鳴いている〟の〝あれ〟はどうでしょうか。静かな秋の夜に，ふと虫の音に気付いた時の〝あれ〟は，目をぱっと開き，鳴き声を確認して，ふっと漏らした声です。次の〝あれスズムシも鳴きだした〟は緊張を解いて歌います。〝ああおもしろい　虫の声〟の〝おもしろい〟は，面白可笑しいのではなく，味わい深いということです。

「♪海」は見事に情景を描いています。

〝松原遠く 消ゆるところ
白帆の影は 浮ぶ
干し網浜に 高くして
鴎は低く　 波に飛ぶ
見よ昼の海 見よ昼の海〟

松原が続く水平線の辺りに舟の白帆が浮かぶ「遠く」と，目の前の干し網の「近く」，干し網の「高く」と鴎の「低く」が一枚の絵のように浮かびます。
次回は「♪ぞうさん」についてです。

連載８
（最終回）

うたう会の指導者の岩木さんは，みんなでうたう前に，歌の内容を話してくださいます。
これまで８回にわたりうたう会の事大好きな歌の事をお話いただき，いよいよ最終回。毎回心あたたまるお話，また本人さんに寄り添うやさしい心を届けてくださいました。ありがとうございました。

うたう会の童謡唱歌 ②

うたう会で歌っていて，子どものころに歌っていた曲の良さに気付かされています。私自身小さい時から，その良さが分からずに歌っていたのです。

前回取り上げた〝松原遠く…〟の「♪海」もそうです。ホワイトボードに海岸線に沿って松原を，水平線と白帆の舟を，高く掲げた網を，鴎をと描いて一緒に歌うのですが，私自身が感慨にふけっています。

唱歌の多くは，大人が子どもを教育するために作られており，文語体の語句が使われています。先ず，この語句の説明が必要です。「♪浦島太郎」は口語体の歌ですが，

〝帰ってみれば　こはいかに〟と文語体が出てきます。「怖い蟹」と思い違いをして歌ってきた人が多いと思います。

〝いかに〟は「♪ふるさと」の２番〝いかにいます　父母〟の〝いかに〟と同じだと言えばわかりますが〝こは〟は難解です。昔の言葉で，そは＝それは，こは＝これは，と使っていて「こはいかに」は，「こりゃどうなっとるんじゃ」だと納得してもらいます。

歌が込めるメッセージのとらえ方によって，その歌への思いが違ってきます。

「♪ぞうさん」の〝ぞうさん　ぞうさん　おはながながいのね〟は，小さい象さんに「ぞうさん　鼻が長くて可愛いね。」と好意を寄せて歌ってきましたが，実は，ぞうさんが鼻が長いといじめられている歌なのだそうです。

「♪ふしぎなポケット」や「♪やぎさんゆうびん」などの作詞者のまど・みちおさんは〈鼻の長くない者から，ひとり鼻の長い小象が，「お前は鼻が長いね」と言われれば，小象は「自分だけが不格好なのかな」と思い悩むのが普通です。けれど小象はまるで褒められたかのように喜んで，『かあさんも長い』と嬉しそうに言う。それは象が象として生かされているのを喜んでいるからです。〉と雑誌に手記を寄せられていました。

何かと違いを排除する風潮があり，いじめもここから始まります。

金子みすずの〝鈴と小鳥とそれから私　みんなちがってみんないい〟という歌がありますが，「♪ぞうさん」も「違い」の問題を越えて，自己肯定を歌っています。

日本の若者は，世界の若者に比べ，自己肯定力が低いと言われています。自分の良さに気付き，自分に自信を持つことです。

歌人の俵万智さんは「まど・みちお，という名前に出会うより，ずっとずっと前に，私は「ぞうさん」に出会っていた。」と，言われたとのことです。この「♪ぞうさん」を歌っては，自分が自分として生かされていることを確かめておられたのでしょう。

２番でこの小象が，〝だれが好きなの〟と問われ〝あのね　かあさんがすきなのよ〟と答えます。１番に続いて歌うと，ただ「母さんが好き」だけでない深い感慨を受けます。

うたう会は，毎月第３日曜日の午後，つばき会館で歌っています。青春歌謡や艶歌なども含め300曲余りの歌集からリクエストした人が前に出て，みんなで歌います。どなたでもご自由にご参加ください。